

精神保健市民セミナー

協働の力で未来照らして

「精神保健市民セミナー」協働の力で未来を照らして(社会福祉法人せらび後援会主催)がこのほど、苫小牧市文化会館で開かれ、植苗病院の片岡昌哉院長代理が「自分らしく生きるために」と題して講演した。精神障害者への理解を願って、日本の精神医療の歴史や今後の動向について語った内容を紹介する。

▽経験が大事 何らかの態度を取る中に自分らしさは、一人で表れます。自分らしく生ずると山小屋にこもったきようと、自分のことは4畳半の部屋で30年かり考えていても、自分お経を上げたりして、見らしさは分かりにくい。つけられるものではない。いろいろな出来事で自分ません。人生のさまざまが動き、人と交わる中でな出会いや出来事で、行知るものです。一言で言動したり、感情が引き起えれば経験。これがすくこされたり、人に対して 大事です。

▽障害者にも権利 誰かが人生で生老病死に出会い、そこからさまざまな喜怒哀楽を経験します。つらく苦しいこともあり、東日本大震災のように、大多数の人が、自分が原因ではない災害にいきなり巻き込まれて

自分らしさは経験から

喜怒哀楽、味わう権利

命を奪われたり、大切な全てものを失うことがある。そういう中でも、しっかりと感情を味わい、それを受け止めて生きていくことが大切です。生老病死で喜怒哀楽を味わい尽くすことは、誰にも保障された権利で

す。障害があるから、あをさせたりしていません。誰か他のどのような理由であつても、邪魔されたり「あなたは失敗するから資格がない」と止められたいはずはない。当時の精神科の生活は、プライベートが無く、男性と女性の病棟が分けて、私自身が精神科医になる以前から、日本をめぐり、世界の精神科ではそう

な経験から、あをさせたりしていません。誰か他のどのような理由であつても、邪魔されたり「あなたは失敗するから資格がない」と止められたいはずはない。当時の精神科の生活は、プライベートが無く、男性と女性の病棟が分けて、私自身が精神科医になる以前から、日本をめぐり、世界の精神科ではそう

な経験から、あをさせたりしていません。誰か他のどのような理由であつても、邪魔されたり「あなたは失敗するから資格がない」と止められたいはずはない。当時の精神科の生活は、プライベートが無く、男性と女性の病棟が分けて、私自身が精神科医になる以前から、日本をめぐり、世界の精神科ではそう



片岡昌哉植苗病院院長代理

協働の力で未来照らして ①

植苗病院院長代理・片岡昌哉さん講演から

▽日本は変わらず 院している状況です。

イタリアでは1978

▽意識の変化

年のバザリア法の制定で 精神病院が廃止され、状
況が劇的に変わりました。 皆、「これは多過ぎる。
た。しかし、日本でイタ 何とかしたい」と思っ
リアのような法律がで います。患者さんにもさ
き、国全体が動きだすこ さまざまな経験から喜怒哀
とはありませんでした。 楽を感じ、自分を知る権
国内には今も苦小牧の3 利があると考えていま
病院を含め、多くの精神 場合により、権利を制
病院があり、34万人が入 限することはあるかもし

りません。その意味では 矛盾を感じるところもあ
りますが、つらくて悲し
い経験をしたとしても、
人間や生きること前よ
り深く知り、戻って来
てほしいと思っています。

の人生は自分のもの。病 院の人たちが言うことだ
けで全て決めてはいけな
い」というぐらいの気持
ちで、私たちができるだ
き、着る物や住む場所を
能性に触れることもあり

いて、自分の担当する患 者さんの中にも手助けを
受けて挑戦している人が
います。うまくいくこと
も、いかなこともあり
ますが、その人たちは生
き生きとしています。
働くことを通じて世界
や社会や人とつながる。
人に何かを与え、何かを
受け取る。これは狭い意
味での治療では、なかな
か患者さんに提供できな
いことです。私たちはそ
の人に可能性があつてや
りたい気持ちがあるなら
応援したい。理解のある

障害者の就労支援が重要

労働通じ人とつながり

患者さんの人生に立ち は だかたり、人生の多く
を左右したりするべきも
のではありません。患者
さんの脇役として、表舞
台を後ろから支えなけれ
ばならない。われわれは
これを常に意識すべきだ
し、病院利用者は「自分

け対等にお付き合いいた できた。
▽働く意義
イタリアでは、精神病
院から社会に出た元患者
たちが協同組合で働くよ

手に入れられるほか、い ろんな人と巡り会い、た
くさんのことを教えても
ることができま。

ます。これは働くことを 通じてこそその経験です。
▽健康者と同じ
苦小牧でも精神障害者

職場を開拓していきたく
い。そして今、日本全体
にそういう動きが広がっ
ています。

苦小牧でも精神障害で
今までと少し違う線路を
走らなければならなくな
った人が、いろいろな人
の手助けを受け、新しい人
生を切り開こうとしてい
ます。それは健康と言わ
れる人間にとつても同じ
で、人間誰しも一人では
生きていきません。それ
を思い起こしてほしいと
思います。